

## 新学年を迎えて

● 今年の3月4月は例年になく困難な状況となっている。東北地方に親戚や友人がいる方の心労は想像以上だろう。少しでもいい状況に向かうことをお祈りしています。

● そのような、日本自体が大変な状況の中、我々の地域のほとんどの方は新学年を迎えた。今年の状況を変な思いで見ている人もいる中で、とにかく新しい学年を迎えられたことに感謝である。

● テレビではいまだに、毎日被災地のニュースなどが流れ、普通の生活にいつ戻れるかもわからない人たちが大勢いる。しかし、私たちは毎日生活が続いていく。もちろんいつ来るかわからない地震に怯えはするけれども、それでも生活は続いていく。自分が被災者のような状況になったらどうするのか。そんなことも考えながらそれでも自分の生活を続けている。それは当たり前ではあるのだけれど、当たり前ではないのである。現在の状況はいつ崩れるともわからない。そんなことを考えさせられる出来事であった。

● さて、これを読んでくれる皆さんへ。何も被災された方の分まで我々が頑張らなければいけない、と言うつもりはない。私



たちは私たちのできることを、しなければならぬことを、確実にしていけたらいい。

● 学校ではきちんと授業を受け、部活は思いっきりやる。遊ぶときはめいっぱい遊ぶ。もちろん塾に来たときはしっかり力をつけていく。そのときやらなければいけないこと、やるべきことにきちんと力と意識を傾けていく。それが大切であるし、それをしていくことが自分だけではなく、地域社会、日本を力強いものにしていくのだろう。

● 私たちは毎日元気に授業をする。そして君たちに力をつけてもらうための努力をする。アドバイスや叱咤激励だ。それが私たちのできることであるし、やらなければならないことだと思っただけだ。また、それはやりたいことでもある。

● 普段そんなことを考えていなかった人も、今回のことで考え始めた人も、自分達がやるべきこと、やりたいことをもう一度考えてみてはどうか。まだまだ余震が続いている。本当にいつ何が起こるかわからない。しかし、そのような状況だからこそ、今、毎日をしつかり、力強く生活してもらいたい。(松永)

## 踊らされて

### 踊り疲れる前に

3月11日のあの日から今日で何日が過ぎただろう。前々からそろそろ来ると言われてきたが、ついに来たかと思うような強い揺れだった。いまだかつてないその揺れに、生まれて初めて生命の危険を感じた。しかもそれは私の想像し

ていたのとは違い、宮城沖で起きたものだった。となると、その日が来るのはまだ先のことか。こうしている間にも地下深くでは来たその日に備え、淡々と力を溜めているかと思うと恐ろしい。しかし一方で、今回を機に、何を日ごろから備えておくべきなのか、職場で被災したときどのようにして帰ればよいのかなどと、いろいろと学ぶことができた。今まで他人事のように考えてきたが、ようやく本腰を入れその日に備える気にさせてくれた。そうそう何度もある

ことでもないし、またあつてほしくもないが、これをよい機会と捉えたい。ただ悲しいことに、多くの人にはあまりにも高い代償となってしまう。また、地震の被害もさることながら、併せて起きた福島での原発の事故が追い討ちをかけている。少し足を伸ばせばそこはもう福島であるから今後の動向から目が離せない。連日、テレビ・雑誌・インターネットから様々な情報が飛び交っている。昨年、尖閣諸島沖で中国の漁船と日本の海上保安庁の船とが衝突、その一部を収めたとされるビデオがインターネットの動画サイトに流れ世間を騒がせたが、そこでも例外ではない。アクセス数をみるとその関心の高さが伺える。しかしながら伝える媒体によつて情報がまちまちで、どれを頼りにしたらよいのかわからない。いろいろな場所から情報が得られる分、混乱も大きい。これは英語の本は巷にたくさん溢れているのに、何を勉強したらいいのか、どうしたら話せるようになるの



かわからず戸惑う私たち日本人に似ている。英語に関する本がこれほどあるのは、世界中探しても日本ぐらいだろうと言われている。余談になるが、どこかの本に、今後変わらないものとして三つ挙げられていたが、そのうちのひとつが日本人の英語教育だった。なんとも酷評されたものだ。ちなみに残りの二つは、イタリア人の性教育と中国人のマナー教育となっていた。少なからずこれらの事情を知る人には、この著者が日本人の英語教育をどう捉えているのか苦笑いを隠せないのではないだろうか。そして、何を頼りにしてよいのかわからず周りに流され、スーパーに買い物に走ることもあった。あの時は「お一人様一個」の張り紙がその意図とは裏腹に、私に必要以上の買い物をさせた。結局そうして買った食べ物は一箱の備えにならず、残ったものはいつもより長いレシートとおなか周りの脂肪だった。

これと全く事情や次元は異なるが、今から11年前、21世紀を迎えるにあたり様々な情報が飛び交った。「1999年空から恐怖の大王が降りてくる」というノストラダムスの予言。お隣韓国では、一部の人が「1999年人類は終わりを迎える」と唱えた宗教に走り、財産を投げ売ってしまい、社会問題にもなったと記憶している。そしてまた性懲りもなく、いま新たに2012年に人類破滅なる予言が巷を賑わせている。やれやれ。

お腹が空けば食で満たせばよいが、情報に飢えている時には何で満たせばよいのだろう。確実な情報がそうしてくれるに違いないが、何が

## 国語力と学力

そうであるかまた見極められない。このままでは今後もまた踊らされそう。踊らされて踊り疲れる前に、情報を見極める目を身につけたらいい。悲しいかな、今私は振り回されている状態にある。その証拠に、よく見ると私の体のあちこちには操り人形の如く、何本かの糸がついている。その糸を上にとだるとその正体が見えるのだが、まだ私にははつきりとは見えない。

(小池)

● 大学受験生を教えて久しい。その間、受験制度の変更はもとより、出題形式、要求される科目、難易度など、あらゆる面で少しずつ変化があり、結果、保護者の方の受験期とは全く別なものとなった感もある。しかし、最も大きく変化したのは受験生の側の学力であろう。勿論、負の方向での変化である。

● 「法学部へ進みたい。」 「文学部志望です。」

「経済が面白そうです。」生徒は、それぞれに希望は述べる。そこで過去の学習歴、特に読書歴を聞いてみるとすさまじいことが起きています。「今まで一冊も本を読んだことはありません。」 「何冊か読みかけたのですが、全部途中で挫折しました。」 漱石の「こころ」は読んだとい



うので、感心していると、「学校の課題で読まされました。」こんな生徒が高二生の半分はいる。岩波新書など読ませたら、おそらく、顔面蒼白、

呼吸困難に陥るだろう。小林秀雄など読めば即失神!

● 勿論、本をたくさん読んだから、必ず学力が高くなるわけでもなく、ましてや人間として立派になることを約束される訳ではない。世の中には、いわゆる教養だけあって、つまらない人間など、はいて捨てるほどいるのだし…。しかし、しかしである。受験だけに話をしよれば、この程度の読書歴で「MARCHに行きたい」とか「国立しか受けません。」と言われると暗い気持ちになるのである。どうしようか…。普通のやり方では、多分無理である。昨日までのキミがやってきた勉強のやり方で、時間を大きく増やして、もつと気持ちを込めて取り組んでも無理である。

● では、どうすればよいのか? キミは変わらなければいけないのである。全く別のタイプの受験生にならなければいけない。読書歴の乏しさを、それに起因する言葉の数の少なさを、読むスピードの遅さ、何より入試問題の文章の内容が理解できないという事実。これらの困難を今まで通りのやり方で時間を増やすだけでは、絶対に克服できない。では、どうするのか? 今までの言語活動の欠如を埋めるのである。新聞を読む。少しでもわからないことがあれば紙の辞書を引き。問題集の文章も理解して読み込む。不明の語はこれまた辞書で。答えが合っているかどうかはほとんど関係ない。解説を読み込んで理解する。理解できない所はできるまで諦めない。過去問も同じ。こういうものを通して、大量(きみ達にとって)の文章と格闘するのである。短

くても半年はかかる。それでもやるのかい? 諦めるのも手だよ。きみの受験だから。でも、やるんだしたら、今すぐ開始。やったことがないことをするのだから苦しいよ。それでも続ける。歯をくいしばって続ける。何があっても続ける。そうしていく中で、突然スーッと視界が開けるときがくる。やれ!

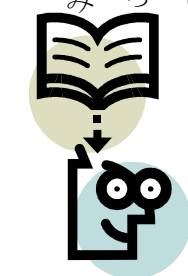
(小林(健))

## 応用問題を解くには

● 「基本問題は解けるのだけれども、応用問題になると解けない。どうすれば応用問題が解けるようになるだろうか。」という趣旨の質問を受けることがよくあります。今回は、応用問題が解けない原因とその対策を考えてみたいと思います。

● 第一に基本問題は解けるとい認識の誤りがあります。基本問題が解けるとい生徒の多くは、基本問題とは易しい問題という認識のうえに立っています。しかし、これが大きな誤りです。基本とは易しいという意味ではありません。そのものの根幹をなすものという意味です。言い換えれば原理・原則ということです。応用問題が解けないという人の多くは、易しい問題がなんとなく解けるだけで、基本問題が解けているわけではないのです。まずは、基本問題を徹底的におさえるべきです。基本問題を解くときの留意点は、常に理解、納得が伴わなければならないということです。一つ一つ確実にこなす、体にしみこむまで繰り返す。これだけで大半の応用問題が解けると言っても過言ではありません。

● 第二に、応用問題というものは基本問題の複合体ですから、これを解きほぐす作業が必要となります。この訓練ができていないと、基本問題は解けても応用問題は解けないということになるわけです。この解きほぐす作業(思考)ができるためには二つの条件が必要です。一つは、基本問題が確実に理解できていること。もう一つは、ある程度応用問題にあたって考える習慣を身につけていることです。応用問題を解けない人に多くみられるので



すが、解答・解説があつたとしても、それを読みこなせない。あるいは、読むことさえしないというのがあります。自分の頭で考えることを放棄していたのではいつまでもたっても応用問題を解きほぐすことはできません。

● 以前に、作業と勉強の違いについて述べましたが、頭を使わないで機械的な作業を繰り返しても基本問題の理解にはつながりません。例えば、意味も理解しないで、英文を丸暗記したり、読めない漢字や英単語を覚えるというのが機械的作業です。これらの悪い習慣を改め、徹底的に頭を使って基本問題の理解に努め、その複合体をときほぐす訓練を行うこと。これが応用問題といわれる問題が解けるようになる道です。自分の勉強法を少し考えてみて下さい。

(村上)

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- 卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- 在籍していた教室までご連絡下さい。